ご　あ　い　さ　つ

熊本県中学校体育研究会会長　　**楠木　正昭**

平成２８年度を顧みますと、激動の１年を過ごしたように思います。４月に甚大な被害を受けた熊本地震では、心痛めることも多かったのではないでしょうか。震災直後は生活が一変して、辛い思いや今後の生活への不安を持たれたことと思います。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。今回の震災により、失ったものも多かったですが、得たもの、気づかされたものも多かったと思います。それは、人の優しさに救われたような気がします。人の温かさ、人と人の繋がりの大切さ、絆など真の姿をこれからの学校生活の中に生かし、心の教育を推進していかなければと思っているところです。

さて、平成２８年度の県中学校総合体育大会（熊本市開催）では、熊本地震の影響で急遽会場の変更や酷暑が続く中での開催で心配されましたが、何とか無事に終了することができました。地震の影響により練習環境の確保や体調面で心配された九州大会・全国大会でしたが例年以上に好成績を納めることができました。これもひとえに先生方のご指導の賜物と心より感謝申し上げます。

また、平成２９年度開催される県中学校総合体育大会（夏季大会）は芦北水俣郡市・球磨人吉合同でのブロック開催の初年度になります。また、九州大会は空手道とソフトテニス競技が開催される予定ですが、地震の影響で施設が使用できずに大会会場の確保が懸念されています。さらに全国中学校体育大会九州ブロック大会が８月に開催され、陸上競技とサッカー競技を熊本県が担当します。１１月には九州学校体育研究発表大会が熊本市を会場として開催され、日本中体連研究発表大会北海道大会で本県の発表が控えています。平成２９年度も激動の一年となりそうですが、全国に「おもてなしの心」を届けられるように、また、復興のシンボルとして熊本の元気な姿を発信し大会成功に向けて頑張っていきたいと思います。

平成２９年２月に文部科学省は小中学校の学習指導要領の改定案を公表しました。各教科でプログラミング教育を含めた情報活用能力の育成を目指して、育てたい資質や能力を明確にし、「主体的・対話的で深い学び」の実現を掲げました。中学校では３３年度からの全面実施を予定しています。今回の保健体育の改訂の基本的な考え方として、心と体を一体として捉え、生涯にわたる心身の健康の保持増進や豊かなスポーツライフの実現を重視すること。また、運動や健康について自他の課題を発見し、その解決に向けて思考・判断し、それを他者に伝えるといった内容です。「健全なる精神は健全なる身体に宿る」という言葉があるように、心と体を一体として成長を促していくことが重要です。今回熊本地震のように震災はいつどこで起こるかわかりません。人間は生きていく上で、様々な厳しい出来事が起きます。逆境に勝る教育はないといいますが、子どもに本来備わっているかけがえのない力を掘り起こして、世代を経ても運動を楽しむ生涯スポーツを実践し、運動の習慣化を図っていくことが重要です。教師の仕事は子どもの心に灯をともすことです。充実した授業が展開されることを願っています。

今年度も各郡市中体研の先生方が理事長と連携を図りながら各事業に献身的に取り組んでいただき、成果をあげていただきました。先生方には各学校において日々の授業及び生徒指導等ある中で、理事としての役割、職務の使命感と責任感に支えられてきたものだと思っております。その御労苦に深く感謝申し上げます。来年度の九州学体研に向けてどうぞよろしくお願いいたします。

終わりに、本研究会並びに保健体育教師への多大なるご指導とご支援いただいております熊本県教育庁体育保健課をはじめ、温かいご支援を賜りました関係各位に心から感謝申し上げます。

会員の先生方の益々のご活躍と本研究会の充実・発展を祈念しましてあいさつといたします。